

令和 5 年度宗像市郷土文化学習交流館協議会議事録

○日 時: 令和6年3月28日(木曜日) 10時00分から11時30分まで

○会 場: 海の道むなかた館 講義室

○出席者: 川口委員、國廣委員、升谷委員、松久委員、赤司委員、長友委員、木原委員、坂梨委員
【事務局】西谷、白木、伊豆、井上

1 あいさつ

○事務局(白木課長)

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。当館は平成 24 年 4 月に開館し、昨年は 10 周年、世界遺産登録 5 周年でした。世界遺産登録前からオープンしており、多くのイベントを開催していました。正月 3 日もイベント開館し周知に努めました。おかげさまで登録の年は 18 万人、新型コロナの感染拡大もあり減少しましたが、現在 11 万人程度で推移しています。館の役割も変わってきました。様々な活用事業、我々と等身大の館と連携しながら今後とも歴史文化、世界遺産を伝える役割を果たしていきたいと思っています。

2 委嘱状の交付

宗像市郷土文化学習交流館協議会委員名簿

○事務局(井上)

机に委嘱状を置いております。配布をもちまして交付に代えさせていただきます。
名簿順に一言ずつ挨拶をお願いします。

○川口委員

玄海東小学校教頭の川口です。以前は玄海小学校に勤務しておりました。またよろしくお願いします。

○國廣委員

玄海中学校教頭の國廣です。本校は 7～9 学年 1 クラスずつしかありませんで全校生徒は 102 名です。校舎は玄海小と隣接していて、職員室は小中一緒になっています。連携を深めながら地域の行事に参加しています。

○升谷委員

地域学芸員の升谷です。昨年に引き続き受けています。体験学習を中心に頑張っております。

○松久委員

福岡教育大学の松久です。専門は美術の担当です。鎮国寺の襖絵制作に参加しています。むなかた館ではワークショップでお世話になっています。

○赤司委員

大野城心のふるさと館館長の赤司です。福岡市の南側にあります大野城市で、同じような人口規模でできた博物館です。6 年前に開館しました。開館までの建設には西谷先生が委員長としてお力添えいただき、私が初代館長に就任しました。九州国立博物館退職後に大野城心のふるさと館にまいりました。宗像にも馴染みがあります。色んな知見をご紹介できたらと思っています。

○長友委員

宗像大社の長友です。神社では広報、神宝館担当の文化局を担当しています。2 年前よりはじまりました、宗像みあれ芸術祭でもこちらの館も活用させていただいております。

○木原委員

市民公募で選任されました木原です。趣味で剣道・居合道をしています。先週の 24 日に宗像大社や玄海中で演舞をさせていただきました。

○坂梨委員

宗像歴史観光ボランティアの会の坂梨です。地域学芸員としても活動しています。

3 会長及び副会長の選任について

○事務局(井上)

どなたか推薦はありませんでしょうか。

○升谷委員

前年度会長をされた松久先生を推薦します。

○事務局(井上)

皆さんにご承認いただいたので会長は松久委員お願いします。副会長はいかがでしょうか。

○松久委員

館の地域学芸員さんと連携をするという意味でも升谷さんをお願いしたいです。

○事務局(井上)

ありがとうございます。それでは会長に松久委員、副会長に升谷委員をお願いしたいと思います。

4 報告事項

(1)海の道むなかた館における事業について【資料1】

○事務局(井上)

むなかた館の来客者数ですが、コロナで一旦減りましたが、今年度はコロナ前に戻るくらいで推移しています。月で約1万人、年間で約12万人となっております。

イベント等ですが当館は夏に夏の課外授業、秋に今年度はいいいさんまつり、春に春まつりといった歴史、文化、世界遺産の体験を中心としたイベントを行っております。

夏の課外授業の主なものですが、乗馬体験と古代の馬鈴づくりでは、宗像市内の乗馬体験ができる民間事業に協力してもらい、昔の馬や馬鈴を勉強して、作る体験と乗馬体験を一緒にしたイベントを行いました。このように地元の事業者さんと連携をしながら体験学習を行っています。次にテンちゃん辺津宮マップと一緒に朝の宗像大社を見ようでは宗像歴史観光ボランティアの会というボランティア団体と一緒にしております。大社を子どもたちにしっかり見てもらおうと観光ボランティアさんと一緒に回ってもらうイベントです。そして明かりの絵灯籠づくりでは、昨年度からみあれ芸術祭がスタートしていて、今年度むなかた館も一会場として参加をさせていただきました。連携事業として、絵灯籠をつくるイベントを行いました。のちほど説明しますが、地域の玄海地区の小中学校の子どもたちにも松久先生のご指導のもとワークショップを行いました。

また、身近なものを使って万華鏡をつくろうは画像②をご覧ください。これは館のボランティア解説員である地域学芸員が地域学芸員の会をつくっていきまして、体験学習でこんな事をやりたいなど話し合っております。その一つとして今年度は万華鏡をつくりました。こちらも松久先生のご指導をいただきながら、地域学芸員が主体となり行いました。特殊なものを使用するのではなく身近なものを使い、100円均一のものを使ってなど試行錯誤をして子どもたちに作る楽しさを体験してもらおうと思い開催しました。

次にみあれ芸術祭についてですが、今年度はじめて参加しました。10月の初旬に絵灯籠を展示ホールに約500個で灯しました。夏の課外授業と9月に玄海小、玄海東小、玄海中に協力していただき作成したものを展示いたしました。いろんな所と連携をしながら行いました。

秋のいいいさんまつりについて説明します。No.3, 4, 5は、宗像市と福津市、県が世界遺産を活用するため、保存活用協議会を組織しており、その事業として行いました。世界遺産を体験・体感するワークショップを開催しました。

No.9とNo.13, 14は今年度新たな取り組みとして、他団体や他館との連携で行っております。下関市立考古博物館、九州歴史資料館の方にこちらに来ていただいて体験学習を行いました。類似する他団体からも学びながらスキルアップを図りたいと思います。No.19, 20はむなかた館の秋冬の定番となっております。門松としめ飾りは地域の伝統文化が薄れてきておりますが、宗像のしめ飾りを知ってもらうため行っております。画像も併せてご覧ください。

春まつりはチラシを資料として添付しております。現在開催中で、今週末で終了いたします。こちらも桂川町や宮若市、古賀市と連携した体験学習を行っております。また九州歴史資料館との連携の中でマグネットづくりを当館でもやろうということで金銅製龍頭や館のキャラクターのテンちゃんのマグネットづくりを行いました。また館内に6か所のポイントを置き、ARを使って子ども達が館内を探索しながらキーワード見つけて館内を回ってもらうイベントをしています。当たるとソフトクリームがもらえ、子ども達にも来館してもらえるようにしています。

むなかた歴史クラブですが、市内に在住、通学する中高校生を対象とした歴史体験講座を開催しています。九州国立博物館で開催する全国高等学校歴史フォーラムに参加を目標に、このようなプログラム

を立てました。研究成果をまとめて、初めて歴史フォーラムに参加しました。

西谷館長による館長講座を開催しました。

特別展では市史編さん記念特別展を開催しました。市史が刊行最終年度になり12月から2月4日まで特別展をいたしました。あわせて企画展を第2展示室で、また体験学習室で開催しました。

地域学芸員は海の道むなかた館のボランティア解説員として館内の展示解説や体験学習指導、市内の小学校が来館した時の世界遺産学習等の指導支援、イオンやサンリブなどで世界遺産啓発事業として体験イベントに携わっています。現在89名在籍し、地域学芸員の会を組織しています。89名いますのでいろんな考え方や得意分野がそれぞれあり、皆さん意見を集約するのが難しいので、この会を組織しました。運営委員会を中心に議論し、世界遺産課と毎月議論しています。松久先生など大学とも連携しながら、イベントのブラッシュアップを図っています。去年は九州歴史資料館に研修として見学に行きました。今年度は赤司館長の犬野城心のふるさと館に視察研修にいきました。学んだことを来年度活かしていきたいと思っています。

(2)「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存と活用の取り組みについて【資料2】

○事務局(伊豆)

4月から世界遺産課の係長をしています伊豆です。宜しくお願ひ致します。資料説明をします。

世界遺産については、単独ではなく、保存活用協議会として組織化をしています。宗像市、福津市、県と大社に入ってください「保存活用協議会」として活用・保存に関して話を進めています。毎年、活動やこれからの課題をとりまとめて文化庁へ報告をしています。会議を今年度は年2回開催し、第1回は6月に書面になりましたが予算・決算を話し、第2回は来年度に向けてどのように取り組むかを明日の会議で話し合います。また、専門の先生に入ってください、専門家会議を7・11・2月に3回の「専門家会議」を開催しております。併せまして、「事務局会議」として行政でどうしていくかを宗像市、福津市、県と一緒に月2回、今年度は全24回開催しております。保存管理に関する事業としてユネスコの勧告について大きく二つの勧告をうけております。一つ目はまだまだ謎の多い世界遺産について学術研究を進めていきなさい。二つ目は構成遺産、周辺環境の現状の保存管理をしっかりしていきなさいということで、課題をいただいておりますので、勧告にしたがいながら取り組みを進めています。学術研究、調査研究につきましては、特別研究事業ということで国際的な検討委員会を2022年度まですすめおきまして、その報告書を昨年の3月に刊行しており、海外向けに今年度、英語版の製作を現在進めております。それに併せまして沖ノ島からの出土品の台帳作成、大社からの様々な資料の文献調査を進めております。二つ目が構成資産と周辺環境の保存管理ということで、風力発電や緩衝地帯における視覚的な影響等を周辺地域においていかに抑えていくかを景観計画とともに計画しながらすすめております。

具体的にはP9の下の方構成資産モニタリングは定期的なモニタリング調査を行っており、今年度は沖ノ島に11回渡り現地調査を行いました。また辺津宮や中津宮についても1回ずつ現地調査を行いました。

P10の②の緩衝地帯の保全ですが、景観法、屋外広告物条例及び農地法に基づく開発行為の管理我々が直接管轄してはいませんが、関係部署と連携してどういう状況で開発行為が行われているか取りまとめしています。届け出に関しては景観法に基づく届出、屋外広告物条例に基づく届出、農地法に基づく農地転用の届出があります。また市内外のボランティアによる海岸清掃を定期的に行っておりまして、今年度は7/17に神湊地区、11/25に大島で行い市営渡船を貸し切り130名で大島地区の海岸清掃を行いました。景観アドバイザー会議に我々も参加し保全や修景を行っています。

③の遺産影響評価は資産内の現状変更や周辺の開発行為に関して影響が大きいものは事前把握と評価や分析を行っています。今年度、該当案件はなかったのですが、R4年度は国道495号線のゴルフ練習場のネットを取り換える、ボールが道路に出るといった安全上の対策として補助がされるので、宗像市として遺産影響評価を行い、それが世界遺産にどういった影響があるのかを報告書にまとめました。工事が終了したので今年度、第3回専門家会議に完了の報告をしました。内容は遺産に大きな影響はないと報告いたしました。

2の公開活用に関する事業は世界遺産に関する公開・活用に向けた様々な事業を展開しています。区分は情報発信、学術、人材育成、展示、イベント、環境・教育に分けています。宗像市だけでなく保存活用協議会として行っています。情報発信としてはWEBページの更新、またいろんな所イオンモール等に出展をしています。

人材育成としては歴史観光ボランティアの会と連携し新しいガイドさんの育成を世界遺産の視点から支援しています。世界遺産の上級検定は、これまで初級検定を WEB 上で随時受けるようにしていました。さらに踏み込んだ難しい内容で今年度検定をいたしました。その認定式を大社で行いました。

イベントは観光を担当している産業政策課と連携しTV 番組のももち浜ストアとHISのバスツアーを企画してもらい、見学先として受け入れいたしました。計 24 回、890 人が当館に来ていただきました。環境教育は大島のビーチクリーンのほかイイサンノヒ全国一斉清掃活動ですが、全国の世界遺産のある自治体と横の連携を図ろうと当館から発信しまして、文化遺産のある自治体に一緒に清掃活動をしませんかと呼び掛けました。今年度は 17 の自治体、3,651 人に取り組みに参加してもらいました。来年度も形をかえさらにスケールアップしながら横の連携も図りながら世界遺産の PR をしていきたいと考えています。

(3)文化財保護事業の概要について【資料3】

○事務局(山田)

世界遺産課文化係長の山田です。P12～13 の内容についてご説明いたします。文化財係は文化財に関する総合的な企画・調整で、どちらかというと文化財の保存に関する業務に携わっています。歴史的建造物や美術工芸品などの有形文化財や祭りなど地域伝統行事の無形文化財、樹木などの天然記念物、これらの保存に関する業務です。

海の道むなかた館との関わりは館事業や企画に反映する、例えば特別展や企画展、その他の活用事業に反映しています。

1)～4)は指定文化財の管理に関する法令についてです。特に 4)の国指定の文化財、宗像大社の沖津宮祭祀遺跡出土品の保存修理、または宗像神社境内の史跡総合活用整備事業は摂末社の保存修理を実施しております。これらの事業成果は大社さんと連携しながら社報に書いていただいたりして情報発信しています。また昨今コロナ禍があげ地域伝統行事の継承が喫緊の課題になっています。地域伝統行事の調査し、実施団体等と意見交換しながら伝統行事の継承の事業を実施しています。特に田熊山笠は東郷小学校と連携しながら総合学習の中に位置づけて事業を展開しています。5 の埋蔵文化財の調査成果を隣の第 2 展示室で展示しているような企画に反映させています。6 の文化財の活用に関しては海の道むなかた館は屋内の歴史文化情報発信拠点施設ですが東郷の田熊石畑遺跡歴史公園は屋外の歴史学習拠点施設という位置づけになります。運営には市民協働の観点から東郷コミュニティに委託しており、地域が主導して遺跡公園の企画運営を実施しています。歴史イベントは古代フェス、民間の事業者と連携しながら一般の人を受け入れるイベントを行っています。地域との協力で東郷小学校の運動会や東郷地区の秋祭りのげんきフェスタも田熊石畑遺跡歴史公園で実施しています。開園から約 10 年ほど経過しますが、当初 30,000 人ほどの年間来園者が 47,000 人(約 50,000 人)となりました。市史編さん事業として、旧宗像市、玄海町、大島村が合併した 10 周年記念事業として平成 27 年からはじまり、「祈りとまつり」「くらしと生業」を刊行して今年度で事業を終えます。市史編さん事業はたくさん成果を上げ、今後、海の道むなかた館の展示内容、企画や運営に反映していきたいと思います。

○事務局(井上)

事務局からは以上です。会長お願いします。

○松久会長

ありがとうございました。説明された内容に質問はありませんか。

それでは私からよろしいでしょうか。文化財保護事業で、昨年、大社の御神木が枯れかけている状態。寿命もあると思うが、末社のように修理が必要だからしていくのではなく 樹を見て回って枯れにくくする事業は今後できないだろうか。提案として、今後予算化できないだろうか。シンボルでもあるので残念。今後枯れるのを抑えるために、工夫は考えられているのでしょうか。

○長友委員

虫が入って菌が入った状況でして、境内にも同様な虫が入ったような枯れ方をしている樹がまだあります。当社の専門スタッフがいないので外部の専門家に見てもらい今後は気を付けていきたい、自然の物なので仕方ない所もありますが、神社としても管理に気を付けたいがお知恵をお借りできればありがたい。今植えているのは移植したのですが、縁起がいいものではないので外に発信はしていません。

○事務局(山田)

長友委員から経緯の報告をしてもらいましたが、文化財としては、神社のなかには社叢が大きな価値と考えている。文化財の中でも社叢が指定されているのは、たとえば八所宮の社叢は県指定の天然記念物で、また、織幡神社の裏山がイヌマキの天然林が自生しているので社叢の一部も県の指定文化財です。行政が支援できるのは指定文化財だけという枠組みになっていますが、昨今、神社、お寺の社叢も重要と考え、維持管理は地域や所有者にやってもらっていますが、なにか大きな問題が起きる前にコミュニケーションを図りながら未然に防ぐような措置をとっていきたいと考えています。

○坂梨委員

指定文化財として社叢が対象ということだが、山にある天然記念物も文化財係の担当ですか。

○事務局(山田)

樹木関係も市指定文化財で、孔大寺山の大きなイチヨウの木や光岡八幡宮の大クスや吉武の平山天満宮のクスノキ、最近では浄光寺の藤の木など一本物の樹木も文化財として保存管理している。

○坂梨委員

白山の天然記念物と書かれていた木も倒れていたが。

○事務局(山田)

白山には指定文化財はない。

○坂梨委員

天然記念物と看板があったが、指定文化財ではないということなんですね。

○松久会長

観光ボランティアをされているので色々興味を持って案内されていると思う。市民の方から広く情報収集をして前向きに対応してもらいたい。県や市の専門職員がいたら連携するのもいいと思います。

○事務局(白木課長)

指定文化財でなければ対応しないではなく、市内にある樹木についても天然記念物候補であり、情報があれば遠慮なく教えていただき、場合によっては調査をしたい。

○松久会長

市が企画したイベントで市内の学生の書道パフォーマンスは人気でした。ここには別の行事の一環で関わっているのですか。

○事務局(井上)

福岡教育大の書道パフォーマンスは、昨年の世界遺産登録5周年のイベントで開催しました。

○升谷副会長

宗像大社の枯れてしまったご神木の材木をお札にするなど何かに活用できないか。

○長友委員

検討はしましたが、菌が入ってしまっているので焼却処分しないといけない。以前高宮参道の杉が倒れた時、細かく裁断してお守りにしたことはありますが、今回も検討はしましたが、専門家がよろしくないとのことでした。

○國廣委員？

昨年度の協議会で6番目にある初任者研修についてですが、学校では若い先生が増え、子どもたちに宗像の良さを伝えていく中で夏休みに世界遺産を中心に宗像・福津の良さを学ばせるのですが、是非今後も継続してもらいたいと思っています。

○事務局(伊豆)

昨年度に引き続き今年度も初任者研修を行いました。来年度も実施する予定です。新規採用の先生が何十人と入ってきており、宗像のことを知らない先生もいらっしゃるので、市としてもふるさと学習、世界遺産学習を進めていまして、また玄海地区の3つの学校には学当館を習発表の場として使用してもらっています。現在、玄海中の展示を館内でしていますし、先日は玄海小の学習発表を展示ホールで行いました。連携をさらにしていこうと思っていますのでよろしくお願いします。

5 その他

○松久会長

昨年度の協議会報告の要約について出来たこと、出来なかったことについて簡単に報告をお願いします。

1) 地域学芸員さんについて新旧の垣根を越えてより連携と交流が図られるようにという意見については。

○事務局(井上)

今年度から4期生が加わりました。4期生は観光ボランティアの会に所属されていて、既存の地域学芸員さんを知っているので垣根を越えて特別な交流の場はありませんでしたが、体験学習なども1〜4期生まんべんなく参加してもらい、事務局としてはバランスよく配置できるようになっています。

○松久会長

2)の地域学芸員の学び直しについては。また4)の事前ワークショップの開催、5)年齢や健康状態に配慮した仕組みについては。

○事務局井上

学び直しについてですが、世界遺産については知識の更新と最新の情報の提供を意味でも、年1回、世界遺産学習の研修を設定しています。また体験学習や学校での指導に不安がある方は研修を行っています。研修後にはアンケートを実施し、自由記入欄に意見を書いてもらっています。それをふまえ運営委員会で議論をして意見の集約をしています。またハラスメント研修も継続して行っていきたいと考えています。4)の事前にワークショップを行うのは、運営委員会で大枠をきめ、子どもたちがやりやすいか、学びの効果が大きいのか、時間内でできるかなどワークショップを2〜3回行います。どなたでも参加しやすい仕組みにしています。5)はイベントの特性を考えながら野外で長時間行うイベントについては、高齢の方に配慮して、人選等考慮しながら行っています。シフトの希望は地域学芸員みなさんから出してもらっていますが、決定は世界遺産課が特性等考慮しながら行っています。

○松久会長

7)の観光資源としての連携、ひとつはみあれ祭で実現していますが、保存活用協議会は県と宗像市と福津市、大社が所属しているようですが、世界遺産は保存修復すると逆行することはあるが、地元の人は観光資源として活性化してほしいという思いがある。宗像市は観光が弱いなど商工会議所や青年会議所の方が言っています。保存部分と活用部分とは違うのか

○事務局(伊豆)

修復の過程とは外れるのですが、宗像市としても多くの人に来ていただき宗像市の魅力の一つとして世界遺産を知ってもらいたい。ももち浜ストアのHISツアーなど取材も積極的に受け、観光協会やホテル・旅館組合と連携しながら観光資源を生かしたい。

○長友委員

昨年度もクイーンビートルでの沖ノ島周遊、高宮への参拝も行いました。4〜6月にJR各社のデスティネーションキャンペーンでは25年ぶりに福岡・大分がターゲットとなりました。JRからの提案を受け神宝館で4/1から玉類の企画展を行います。まが玉の他いろんなご神宝を展示します。

○松久会長

この場で議論したことを参考してもらいながらイベント等に活かしてもらっていると思います。

反響の大きかったものを形を少し変え、繰り返し行っていただいていると思います。ボランティアで活動されていて意見などありませんか。

○升谷副会長

以前もお願いしましたが、西鉄のバス停についてです。見通しが悪いので木は切られました。確かに明るくはなりましたが、東郷からのバス停と神湊からのバス停が近いので、バスが停車しているときに反対車線に大きな車が来ると渋滞がおきます。その間を人が横断するので事故が心配です。また個人的な意見ですが、お客さんが大社から帰る時バス停がわからず探されています。もう少し海の道むなかた館に近くに移動できないでしょうか。

参道の横道から入るのも残念です。神湊から来るバス停はお店との関係もあるとは思いますが。西鉄に提案してもらえないでしょうか。

○松久会長

確かにカーブが2つあり、バス停があり渋滞がおきていますよね。管轄はこちらではないと思いますが、日常的に利用している方から意見としても上にうまくあげたいと思います。

○事務局(伊豆)

館のインフォメーションでもバス停の場所を聞かれますし、事故の心配もあるので機会があれば、強く要望を交通事業者や道路管理者等に伝えたいと思います。

○坂梨委員

今年度観光ボランティアの会では元気な島づくり事業の一環で大島と地島で街歩きツアーを企画しました。あわせて清掃活動も行い、世界遺産課にご協力いただきありがとうございました。グリーンネットの支給と館でゴミの収集してもらいました。通常はできないそうですが特別に対応していただきました。大島はコミセンでゴミを収集してもらうのですが、地島はできず、ゴミ拾いしても持ち帰らないといけませんでした。

お願いしたいのはそういった対応を常設的にしていただければと思います。2〜3年前、世界遺産課のグリーンツーリズムでも同じ対応をしていただきました。この企画を復活していただきたいです。昨今、環境に配慮したイベントが増え、参加したい人も増えているように感じます。ご検討お願いします。

○事務局(伊豆)

保存活用協議会でクリーンツーリズムとして清掃活動を行なっています。世界遺産の対象となっている大島や玄海の海岸清掃をし、そのごみを回収しています。むなかた館や道の駅、大島でも回収場所があります。パンフレットやウェブ等で告知していきます。整いましたら、皆さんにお知らせします。市民だけではなく観光客も参加してもらえたらと進めている事業です。

○松久会長

楽しく参加していただいているようですね。館のボランティアの方も協力してもらっていますが、若い方を取り込むためのアイデアはないですか。

○赤司委員

ボランティアさんに活躍してもらおうと館が輝くので重要です。成功事例では九州国立博物館には学生会があり学生だけで行う取り組みもあります。うちの館も年齢構成が高いので、若い方をどう取り込むかが課題です。入りやすいようなイベントを企画し応募してくれた人をつかまえるようにしています。若い方が参加されると活性化していくので取り組んでいきたいと思っています。

○松久会長

イベントで連携していければと思います。

○赤司委員

むなかた館の来館者数に驚きました。日本の博物館で10万人規模の地域でこれほどの来館者数はほとんどないだろうと思います。誇っていただきたいと思います。うちの館も11万人ほどで市長に褒めて下さいと言っています。

またこの館の特色はこれだけのイベントをやっていることだと思います。特に地域の団体、他の博物館と広域連携をして素晴らしいと思います。

昨年4月に博物館法が改正され博物館のあり方ががらりと変わりつつあります。保存と活用に力をいれるだけでなく集客のために知恵を絞るようになっていきます。文化庁が推奨しているのが連携をすることとしており、様々な助成事業を用意して地域の課題を解決するよう中核が博物館であると。小さな博物館は人員に限りがあり広域的な連携することで企画の共有、職員のスキルアップを図ることができます。

また、参加されている委員の皆さんが多岐にわたって関心を持っていることに驚きました。木の話とかですね。木はなかなか難しいものです。とある例で、自宅にいい木がある、行政が勝手に調査するのはできない。地域独自の文化財の活用の仕方、例えば宗像遺産をつくって、市民が申請して行政が登録する。市民レベルで文化財の活用、遺産として、認知されればいいと思います。太宰府市は実際行っています。市民から山の姿がきれいなので認定して欲しいと申請があり、私も委員として参加しましたが驚きました。

○松久会長

宗像遺産は強制力はないが訴えやすいですし情報収集しやすい。太宰府の市民遺産として具体例があるようですので調べていただき、きっかけになればと思います。

○升谷副会長

2月に地域学芸員運営委員会で大野城心のふるさと館に伺いました。前年は九州歴史資料館に見学に行きました。どちらも建物とはとてもかないませんが、当館の中身は充実しているのではないかと自負しています。大野城でもボランティアさんがたくさん活動されており、体験学習も充実しているなど思いました。我々も体験学習に力を入れています、種類はかないません。宗像にかかわる体験メニューを考えています。すごく参考になったので、これからもほかの資料館、歴史博物館の見学をしていきたいと思います。

○木原委員

世界遺産センター設立の要望の話があったと思いますが、その後いかがでしょうか。また、行政の統計のデータ正確性について社会的に問題になっていますが、入館者数はどのようにカウントされていますか。

○事務局(白木課長)

世界遺産センターについてですが、昨年の3月に大社さんが中心となり3万6千名を超える署名が提出されました。議会で市長が保存活用協議会で検討しようと申しています。宮司さん、宗像・福津両市長、知事で対面に話そうとなっています。世界遺産センターについて持っているイメージがそれぞれ違うだろうということで、そのすり合わせやどう進めるか。明日の協議会で宮司がセンターに対する思いや必要性などを説明されて、各首長が意見を出すと思います。あまり進んでいませんが、話し合いの場が持たれようとしています。動きがあればまた情報共有します。

○事務局(伊豆)

入館者数ですが、正面と西館の自動ドアの入り口にカウンターが付いていまして入館者のチェックをしています。

○木原委員

田熊の方は？

○事務局(山田)

田熊石畑公園には村づくりの会のメンバーが、常駐しています。午前2回、午後4回に定点観測を行って人数の集計をしています。

○川口委員

小学校はむなかた館で勉強させていただきお世話になっています。今後は例えば出土した土器の貸出とか教育委員会を通じて周知してもらい、宗像の遺産を学び関心が持てるよう、こども達に呼び掛けたいと思います。

○松久会長

いろんな意見や提案ができました。対応できることは進めていってもらいたいと思います。

他になにかありますか。

○坂梨委員

昨年、釣川沿いを案内する機会があり、玄海小学校の生徒が橋の昔の写真と絵の看板を川端橋とさつき橋に掲げています。川端橋は鎮国寺の参道手前の民家の壁側、さつき橋は海側にあり観光客も市民も見ないところに設置されています。昔の写真や子どもたちが描いた絵で非常に良いものなのですが、もったいないです。むなかた館でもそういったものの展示があると市民の方も見ることでいいのではないのでしょうか。

○事務局(白木課長)

面白い形でできそうなので、学校との連携を深め進めていけたらと思います。赤司委員の館とも連携したいと思いますが当館も最初はイベントもなりふり構わずやったところ職員が疲弊しまして膨大な仕事量となりました。知恵を絞りながら進めていきたいと思います。

最後に当館の西谷正館長は3月をもって退任となりました。世界遺産の登録の出だしから、また館の運営に関して大変ご尽力いただきました。本日の午後退任式を行います。

○西谷館長

初めてお目にかかる方もおられますが、西谷正と申します。平成24年に館長を拝命して12年になります。昨年の11月に硬膜下血腫という脳の病気を発症し、これは世界的な漫画家の鳥山明さん同じ病気で亡くなりましたが、2週間入院し自宅静養していました。館長講座も中止となりご迷惑をおかけしました。本日は委員の皆様には早朝からおいでいただきました。報告事項が主でしたが、貴重な意見をいただきました。当館の運営に努力していきたいと思います。今月で退任しますが、宗像の世界遺産に関しては特に関心が強く、今後も宗像の研究を中心に関わっていききたいと思います。皆様には引き続き、運営活動に引き続きご理解とご支援をお願いします。

拍手

○松久会長

これで協議会を終わります。